

令和6年度 第2回 佐久市立近代美術館協議会 議事録

日 時 令和6年11月19日（火）午後3時00分～午後4時30分

場 所 佐久市立近代美術館 視聴覚室

出席者 委員6名（欠席4名）、事務局6名

1 開会（事務長）

2 あいさつ（社会教育部長）

3 会議事項

進行：武重会長

（1）令和7年度事業（案）について

事務局：（1）説明

委 員：田村文雄展のところに春休みワークショップ、臨書展のところに臨書展ワークショップとの記載があるが、どのような内容か。もしすでに決まっているようなら知りたい。

事務局：現時点では具体的に決まっていない。参考に今年度について申し上げると、夏に開催した平山郁夫のスケッチ帖では、平山郁夫のスケッチ力や描写力に着目して、美術館の展示室で実際に展示品を模写するという内容のワークショップを行った。十一月頭に終了した牧野一泉展の会期中には、二回ワークショップを開催した。展覧会を鑑賞していただいたと思うが、牧野氏の作品は、一見何を描いたのかわからないような作品だった。しかし、作品をつくる過程を体験してもらおうと絵への理解も進むのではないかということで、そうした視点からワークショップを実施した。一回目は牧野氏の息子の香里さんという日本画家の方に来ていただいて、絵を描くという視点ではなく、「絵を作ろう」という、画面の中で色々やって絵を作ってみるという体験をし、どうやって作品を作っていくかということを行った。二回目は須藤友丹さんに講師をお願いした。牧野氏の作品が、絵の中に色々貼り付けてある、日本画の材料以外にもくっ付けてあるという点に注目し、牧野氏がこの技法をAssemblageと呼んでいるため、それにちなんで、同じように画面の中

に色々なものを寄せ集めて画面を作っていくというワークショップを行った。

来年度も展覧会に絡めた、理解が進むようなものができればいいと思っているが、一つは企画展で、もう一方はコレクション展である。田村文雄の版画は銅版のため（実際はリトグラフ）、銅版を実際に行うのは難しいと思っているが、展覧会との関連性があるワークショップを続けたいと思っている。

委員：体験型だとにぎやかにもなって良いと思う。来年度も体験型のものを続けていくと面白いと思う。

(2) 18歳未満及び高校生以下観覧無料に係る条例改正について

事務局：(2) 説明

(3) その他

・報告事項

ア 来館者を増やすための取り組みについて

事務局：(3)報告事項 ア説明

委員：資料の「山下新聞店瓦版」に臼田地区のみとあるが、私の家の方にも入ってくる。 どうして臼田地区のみと書いてあるのか。山下新聞店の新聞を取っていらっしゃる方は、臼田地区だけではなく、佐久市の何処までかはわからないが、結構いると思う。したがって、「のみ」という表現が良くわからない。

事務局：山下新聞店がたまたま臼田地区にあり、その新聞の配達エリアということに訂正させていただきたい。

委員：山下新聞店は中込ではないか。

事務局：臼田にある山下新聞店のことである。市内には山下新聞店がいくつもある。臼田にある山下新聞店の広告ということで、訂正させていただきたい。

委員：こういうのをやったらどうか、と何年も言っていた色々な取り組みを実際にやっていただけて嬉しい。広報関係のところとプレスリリースの

ところで、FMさくだいらはやはり視聴者が多い。佐久市の方が結構出ている印象があるため、係長にもぜひ出ていただきたいと思う。

事務局：「佐久市からのお知らせ」を佐久市の提供で行っており、月に一度は美術館の職員が出ているため、またお聞きいただきたい。いつ美術館の情報が出るかについては、Xなどでも情報を流していけたら良いと思っている。特に本庁が休みで美術館は開館日となっている日に出演することが多いと思うため、ぜひ聞いていただけたらと思う。

委員：他にも、佐久市提供のコーナー以外にもイベント情報を出してくれるため、そういったところでも小まめに情報発信できたら面白いかと思う。

委員：来館者を増やすための取り組みで、広報やプレスリリースがあったかと思うが、手ごたえを感じているものや響いたもの、あるいは反応が良かったものがあれば知りたい。もしあれば、そうしたものに力を入れていくのが良いかと思うが。

事務局：来館者アンケートの中に、何を見て来館したかを尋ねる項目はある。駅の横断幕やSNS、FMさくだいらや佐久ケーブルテレビなどのローカル放送、正直なところ、どの程度効果があるのかはわからない。しかし、アンケートに時おりSNSを見た、などと書かれていることがあり、わずかではあるが効果があったと思う。また、広報活動だけでなく、色々なイベントを含めてであり、効果の有無はわからないが、人数的には千人まではいかないが、現在のところまでで言えば、前年度のこの時期より五百人くらいは来館者が増えているという状況である。しかしそれが、広報の効果なのか、イベントの効果なのかはわからない。

委員：個人的に、私の行動範囲は広くはないが、佐久平駅で展覧会の案内を見かけることがある。仕事や行動範囲は皆それぞれ違うとは思いますが、個人的には佐久平駅の看板など効果がありそうだと感じた。

委員：インバウンド事業や観光客誘致の点で、何か考えていることがあるか。佐久市を知ってもらうという意味で、佐久市にゆかりのある企画展などを開催しているため、佐久のPRとして、観光の方に繋げていく、周知していくという考えがあるか、もしくは今のところはいいいという考えか、あるいはもうすでにやっているのか。さつき、「旅色」に情報を

掲載しているという話は聞いたが。私は今、熱気球クラブとバルーンの方の理事をやっており、今度観光で十数人ほどを飛行させるということを実験している。市長が乗り気で来年度くらいから実施するというイメージだが、ターゲットは観光客である。バルーンの街、佐久と言われているため、そうしたところから今色々と仕掛けており、観光課が対応しているという状態だと思う。そうした部分で、佐久市のPRとして美術館に行ってもらえるような取り組みというのも私は有りなのではないかと思っている。ご検討いただければ。実際、何ができるか、というのはあるかもしれないが。

事務局：今のバルーンの話で、少し前に現在の美術年鑑社の社長の油井一人氏と話した際に、バルーンを飛ばして上から《さく》を見たらどうか、というような話があり、「それは面白いですね」と反応してしまった。ちょうどその頃、市長がXで軽井沢のホテルがバルーンのツアーを組むという内容をポストしており、それを上手く結びつけて《さく》の上空を飛んでもらうということができたら、目玉のひとつになると思った。しかしそれは思っただけで何も進んでいない。

委員：バルーンも近くにいるため良く見るが、バルーンフェスティバルは県外者の方が多い。そういったときに、佐久市に美術館があるということをちょっとでもアピールできたらと思っている。企画展の内容だけではなく、美術館がなぜここにあるのかも含めて、対外的に。市内の場合は教職員に向けて、教職員が困った際に頼れるということも必要だと思う。一方、佐久市だからこの美術館があるというのは佐久市のPRにもつながると思うため、やっていただけると盛り上がっているなという感じが出てくるのではないかと思っているため、ぜひお願いしたい。

事務局：バルーンフェスティバルのときだったが、市内のホテルや道の駅といった、観光客が立ち寄る施設にはチラシ等を配布した。また、広めていきたいと思う。

委員：観光客目線が重要だと思う。私は佐久市内に住んでおり、この美術館を知っているため、急に企画展の話を聞いても見たいなと思って来られるが、観光客の場合は、企画展について、この人であれば見たいな、とかこの人の作品が見たかった、と行って来館する人は少ないと思う。インバウンドや観光客を狙った場合は(情報の)打ち出し方がまた変わっ

てくると思うため、上手く検討していただければ何か繋がってくる。そのタイミングにしか見ない人たちがなぜここに来るんだというものを考えていただければと思う。

委員：今のインバウンドの話について、まさしくそうだなと思う。私も海外旅行に行く際に、意外と小さい美術館、例えば地元の名もないアーティストの方たちの作品を見に行ったりすることが好きだ。そのような美術館に行くのはマニアックであり数としては少ないと思うが、いると思う。食事などで地産地消というのは最近あると思う。地元のものを食べるのに、わざわざ山の中やアクセスの悪いところに行ったりなど。多くはないが、美術館もそうした地元の作家やマニアックな作家というのも見てみたい、旅行の機会に地元の美術館を覗いてみたいという、対象人数は少ないかもしれないが、そういう方も少なからずいる。今までインバウンドの話などは出てこなかったと思うが、そうした観光客に向けて伝わるようにアピールするのも良いのではないか。

委員：先日、サントミュージゼで開催されている山本鼎版画大賞展に行ったところ、スタンプカードがあった。展覧会を会場に四ヶ所スタンプが置いてあり、すべて押すと記念品が貰えた。四～五種類あり、そうなる遊び感覚で、楽しい気分で押したい、となる。例えばこの美術館の企画展などでも一年通して企画展ごとにスタンプをひとつ、というように、例えば四回や、あるいは全部行ったら記念品が貰えるなど、そうした取り組みがあっても面白いのではないかと思う。

委員：「教員のための博物館の日」について、先生方が来たあとに美術部の生徒などが来たと言っていたが、そのアクセスはバスなどだったのか。

事務局：歩いて来た人が多い。高瀬小学校は徒歩で駒場公園に遠足に来て、そのついでに美術館に寄ってワークショップを行いたいということで、1階のフリーのところで、でこぼこ発見のような、紙粘土を色々なものに押し当てて、かたちを作るということを行った。それは二月に、その様子がわかるように展示する。そちらもぜひご覧いただきたい。関わってくれる先生は下見をしたり相談に来たり、時間をかけて準備をされていた。

委員：学校で、大人数で来るとなるとお金もアクセスも少ないと思う。そのた

め、先ほど館長が言っていたように、出張や出前で行って美術館のことを伝えるというようなサービスやワークショップを行っていることを伝えることが効果があるというか、児童生徒は嬉しいのではないかと思う。

事務局：さっとやれと言われてできるような内容じゃない。最初にどんな環境なのか、そして私たちに何が出来るかというのを考えていかななくてはいけない、場数を踏んでいかななくてはいけないことではある。やはり先生方のニーズを考えると私たちに出来ることを考えること、それが一番早く実現できるのではないかと思っている。しかし美術館全員出払ってしまうと動かない。少ない人数でやっている。工夫が必要。

イ 「第3弾クラウドファンディング」の状況について

事務局：（3）報告事項イ説明

委員：岩橋英遠の作品は、ふるさとチョイスに画像が掲載されている一点だけを行っているのか。

事務局：掲載されている《果樹園二題 北ぐにの春》、《果樹園二題 冬来る頃》は対の作品。計二点ということになる。

委員：寄付金額が目標額よりも下回っていても実施はするのか。

事務局：実施する。

委員：修復は今どのような状況か。

事務局：修復する作品は、すでに修理工房に運んでいる。現在修復中。

委員：修復期間はどれくらいかかるのか。

事務局：今年度中を予定している。修理工房から表具屋へ運んでそこで作業したりするため、具体的な日程はわからない。しかし、今年度中には終わる。

事務局：（3）報告事項（視察について）説明